

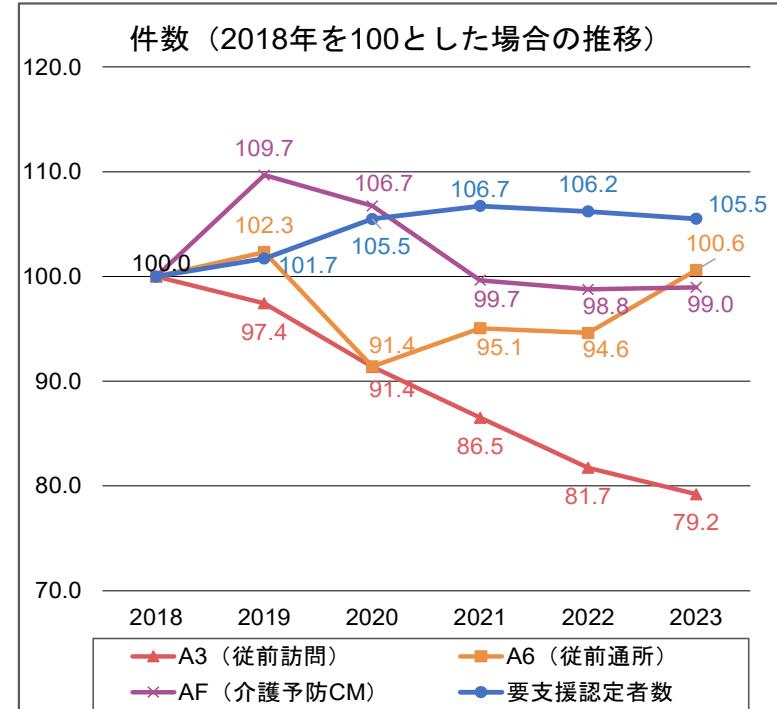
介護予防訪問型サービスの提供体制について

川崎市健康福祉局
長寿社会部介護保険課

第25回運営協議会での主な御意見等について

＜主な御意見(第25回運営協議会)＞

- ・ヘルパーによる支援の必要性が疑われる利用者が見受けられる。介護人材が不足している状況にある中で、介護度の重い要介護者への対応が賄つていけるのか。
- ・今後、増加が見込まれる独居高齢者の支援が必要な要支援者等に対し、サービスが滞ってしまうのではないか。
- ・行政が作る制度に合わせるのではなく、社会状況に合わせて民間事業者を活用した方が良い制度が作れるのではないか。市の負担も軽くなるのではないか。



第22回地域包括支援センター運営委員会資料より抜粋

＜主な論点と検討の方向性＞

- ・訪問型サービスの提供体制の確保
→ヘルパーの定期的な関わりが有効と考えられる対象者を優先
- ・多様なサービス
→高齢者の多様なニーズに柔軟に対応できるサービスの創出

今後のスケジュールについて

令和7年11月～

利用実態の把握（調査結果）を踏まえて、訪問型サービス事業所への再ヒアリングを実施→検討の方向性（案）のまとめ

令和8年 2月

次期計画策定に向けた検討の方向性（案）に関する審議

訪問型サービス（A3）の 利用実態の把握

訪問型サービス(A3)の利用実態の把握

目的

訪問型サービス(A3)(従前相当)について、人材不足による供給制約を背景とした利用減少がみられる中、以下のような検討を行うため、現状の訪問型従前相当サービスの利用実態を把握する。

- ・従前相当サービスの見直し
- ・利用したいが利用できない層を対象とした従前相当以外の代替サービスの検討
- ・従前相当サービスの利用基準の検討／当面の必要量の設定 など

調査概要

【調査対象】

- ・川崎市の地域包括支援センター(48包括)において、2024年4月～2025年2月に新たに従前型の訪問型サービス(A3)を利用した340名について、地域包括支援センターが回答

【調査内容】

- ・介護予防支援の委託状況、新規相談／再相談、個人属性(要介護度・年齢・世帯類型、居所)、認知症高齢者の日常生活自立度、障害高齢者の日常生活自立度、世帯の経済状況、要支援・要介護の同居家族の有無、本人の改善意欲、訪問型サービスの利用状況、訪問型サービス以外に利用しているサービス、身体・疾病の状態、認知・精神面の状態、社会生活等の状況 など

【回収状況】

- ・100.0%(48包括/48包括)、100.0%(340名/340名)

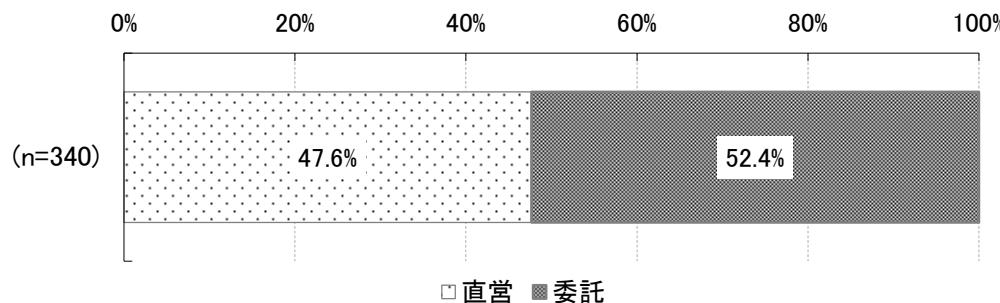
※新百合ヶ丘包括は対象者なしのため、48包括で調査実施

1. 单純集計

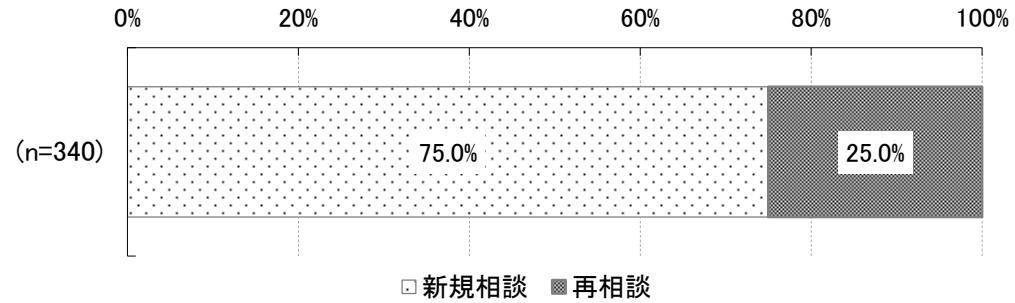
基本情報

- 介護予防支援の委託状況は、「直営」が47.6%、「委託」が52.4%であった。
- 新規相談／再相談の別は、「新規相談」が75.0%、「再相談」が25.0%であった。
- 区の内訳は、「川崎区」が最も多く21.8%(74名)であった。次いで、「多摩区」が17.4%(59名)、「高津区」が15.6%(53名)であった。

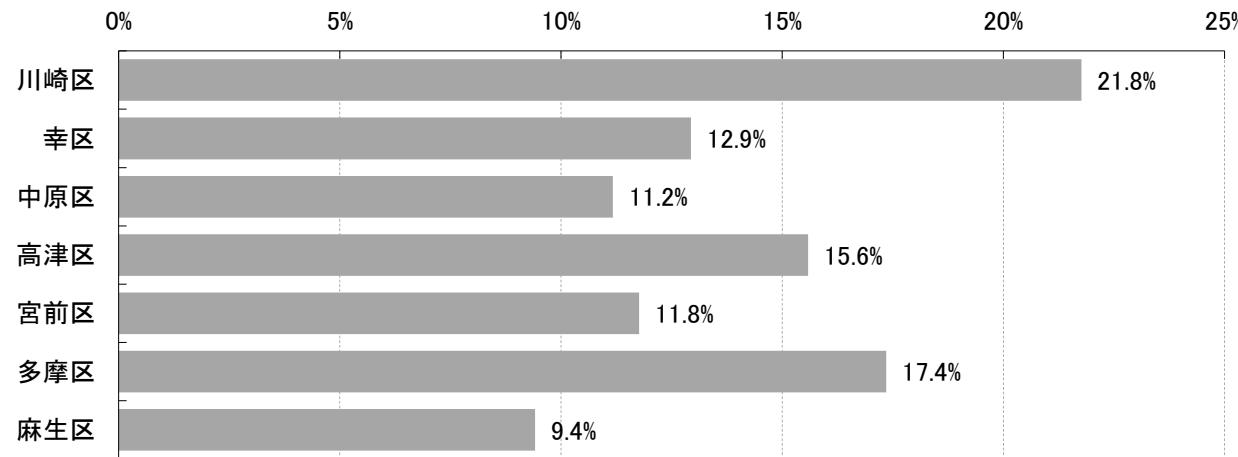
【介護予防支援の委託状況】



【新規相談／再相談】



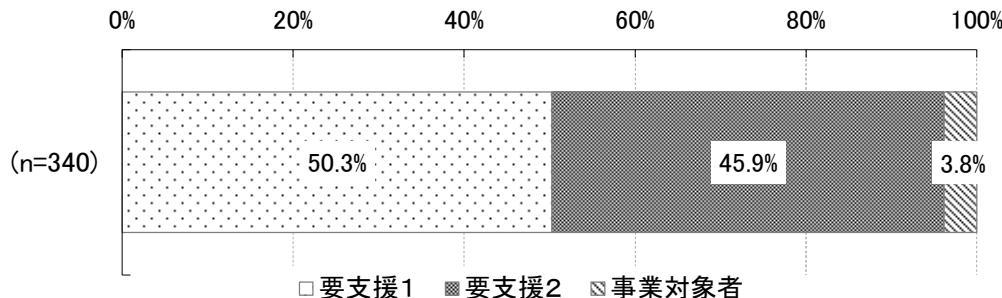
【区】



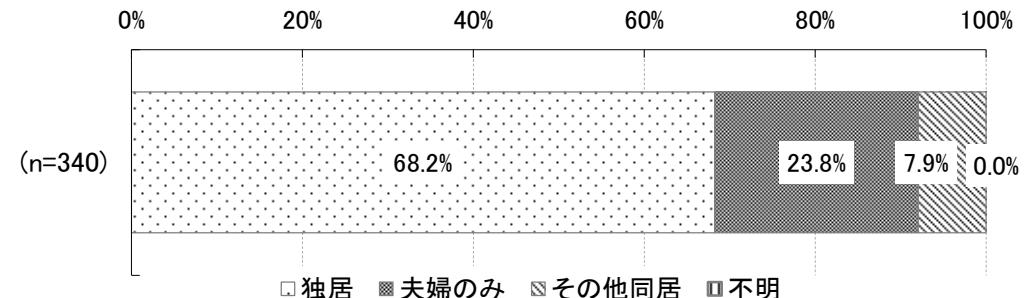
利用者の個人属性①

- 訪問型サービス(A3)の利用者の個人属性について、要介護度は「要支援1」が最も多い50.3%、次いで「要支援2」が45.9%であった。
- 世帯類型は、「独居」が最も多い68.2%であった。また、居所は「自宅」が最も多い、96.5%であった。
- 年齢は、「80~85歳未満」が最も多い26.8%、次いで「85~90未満」が23.2%であった。

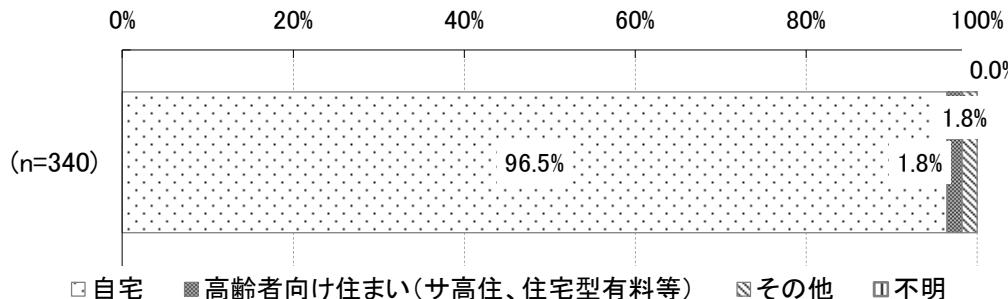
【要介護度】



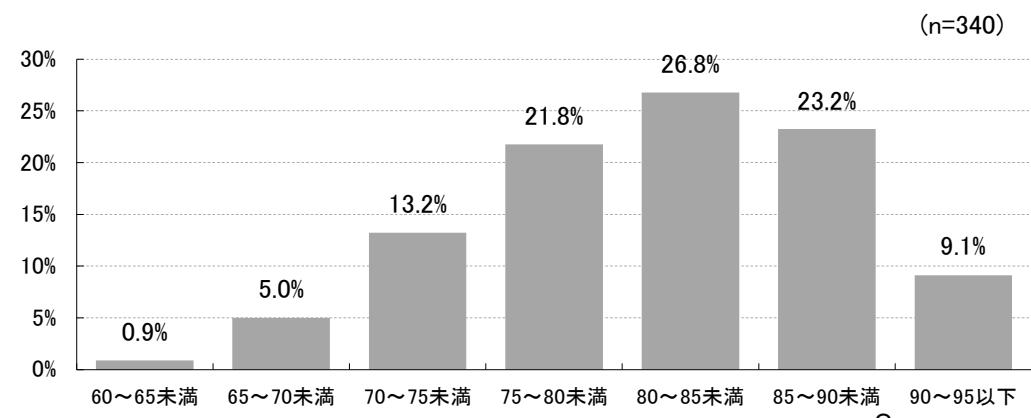
【世帯類型】



【居所】



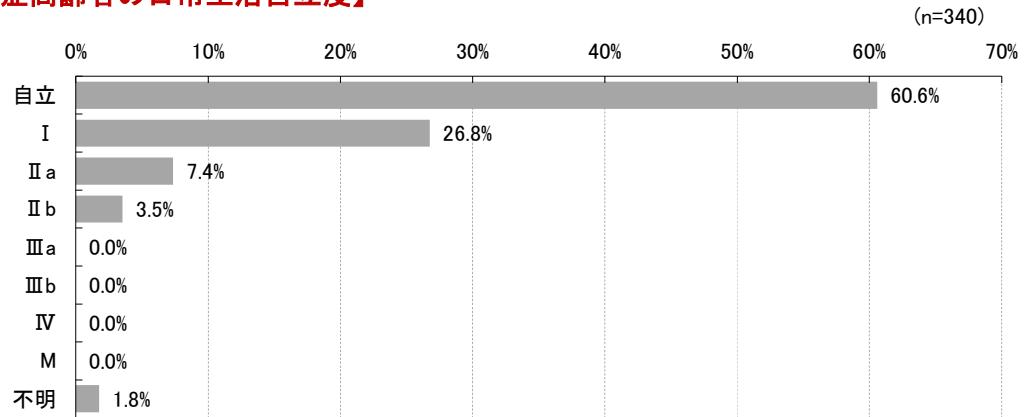
【年齢】



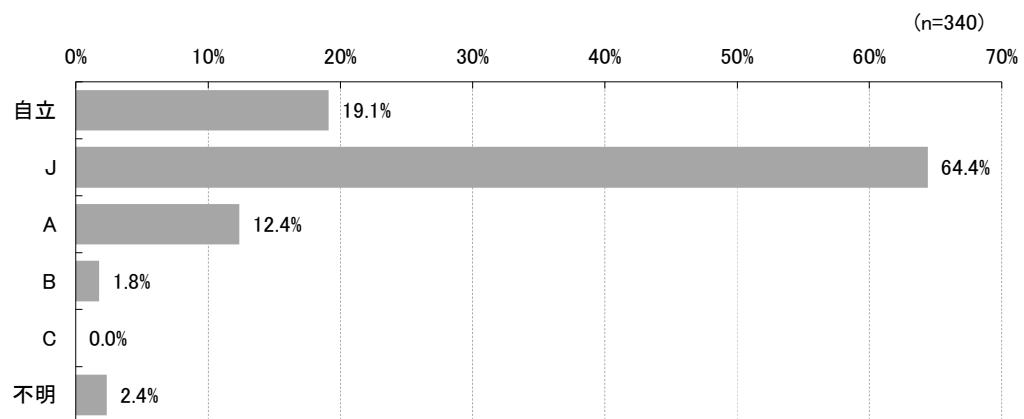
利用者の個人属性②

- 訪問型サービス(A3)の利用者の個人属性について、認知症高齢者の日常生活自立度は、「自立」が最も多く60.6%、次いで「I」が26.8%、「IIa」が7.4%であった。
- 障害高齢者の日常生活自立度は、「J」が最も多く64.4%、次いで「自立」が19.1%、「A」が12.4%であった。

【認知症高齢者の日常生活自立度】



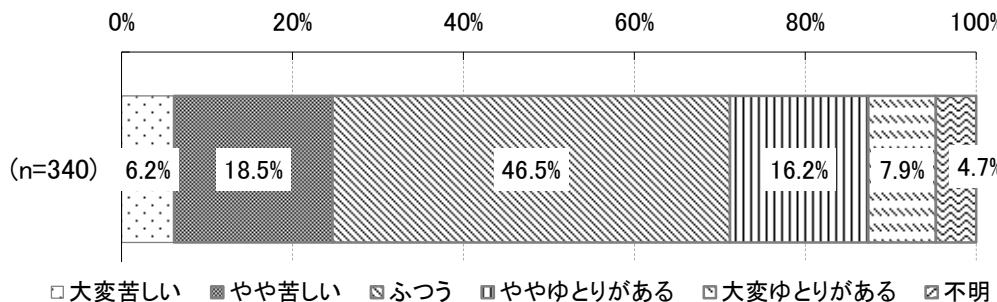
【障害高齢者の日常生活自立度】



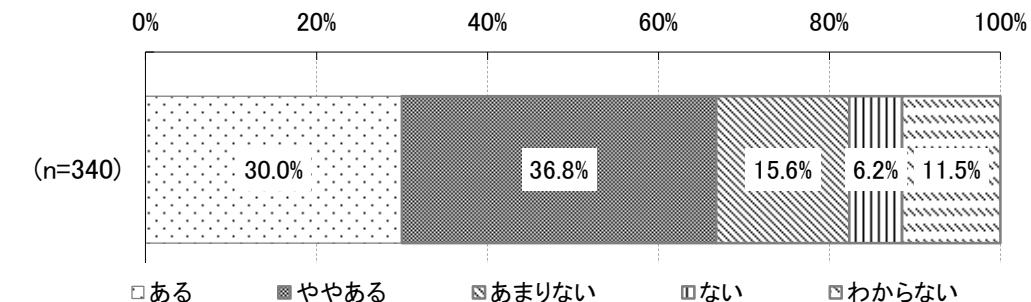
利用者の経済状況／要介護の同居家族／本人の改善意欲

- 世帯の経済状況は、「ふつう」が最も多く46.5%、次いで「やや苦しい」が18.5%、「ややゆとりがある」が16.2%であった。なお、「大変苦しい」は6.2%であった。
- 本人の改善意欲は、「ややある」が最も多く36.8%、次いで「ある」が30.0%であった。
- 要介護の同居家族の有無は、「なし」が72.1%、「あり」が27.9%であった。なお、「あり」のうち最多のは、「要介護以上」で68.4%であった。

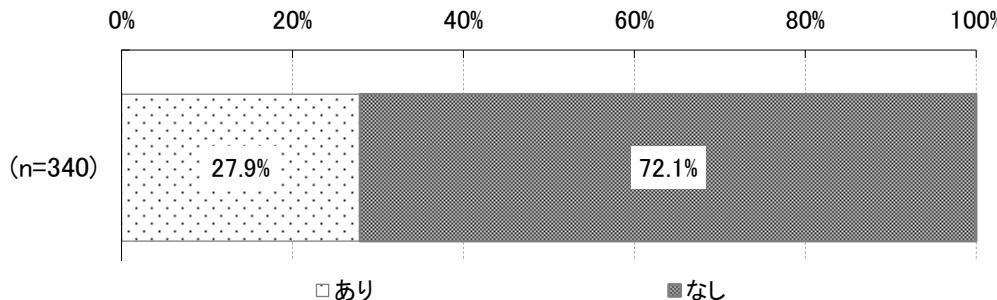
【世帯の経済状況】



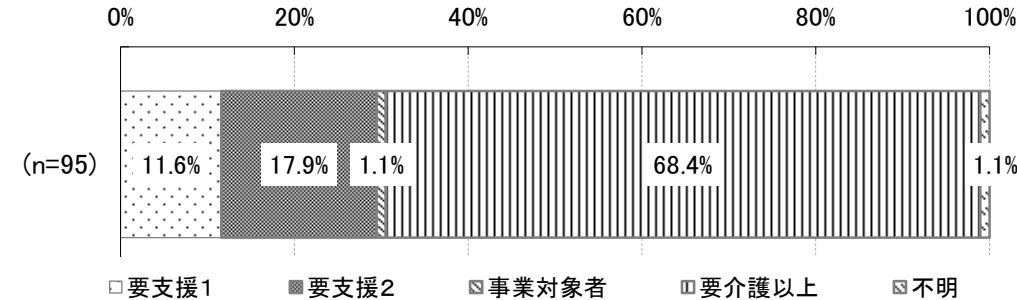
【本人の改善意欲(相談時)】



【要介護の同居家族の有無】



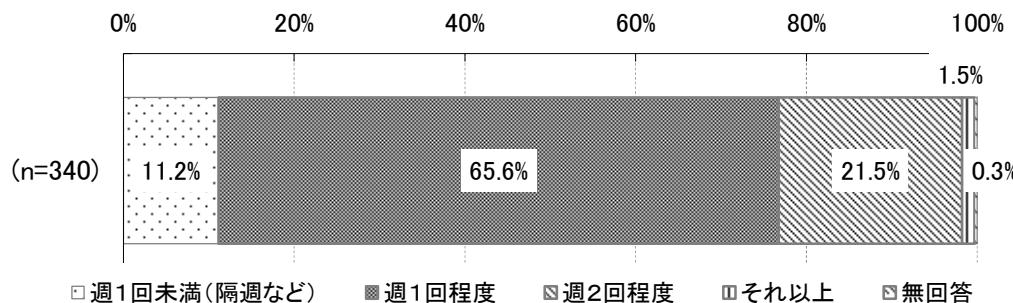
【同居家族の要介護度】



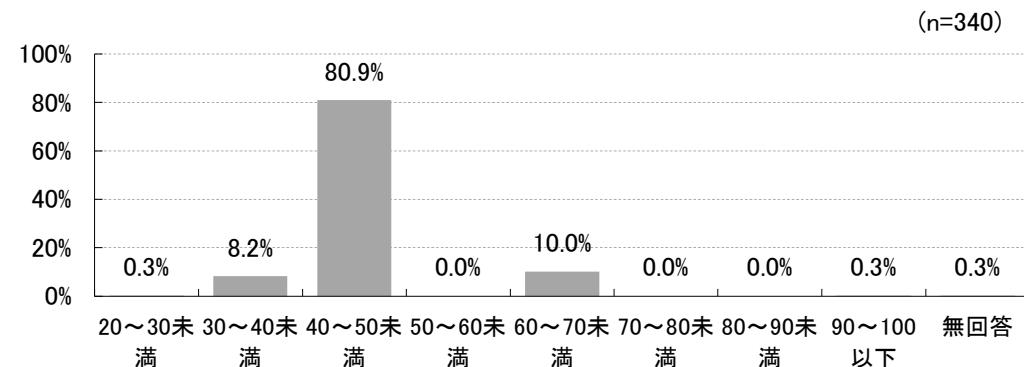
訪問型サービス(A3)の利用状況／その他サービス利用の有無

- 訪問型サービス(A3)の利用頻度は、「週1回程度」が最も多く65.6%、次いで「週2回程度」が21.5%であった。
- 1回あたりの提供時間は、「40～50分未満」が最も多く80.9%であった。また、サービスの提供内容は「掃除/ゴミ出し」が最も多く84.7%、次いで「買い物」が47.4%であった。
- 訪問型サービス以外に利用しているサービスは、「A6介護予防通所介護」が13.5%、「民間自費サービス」が7.6%であった。

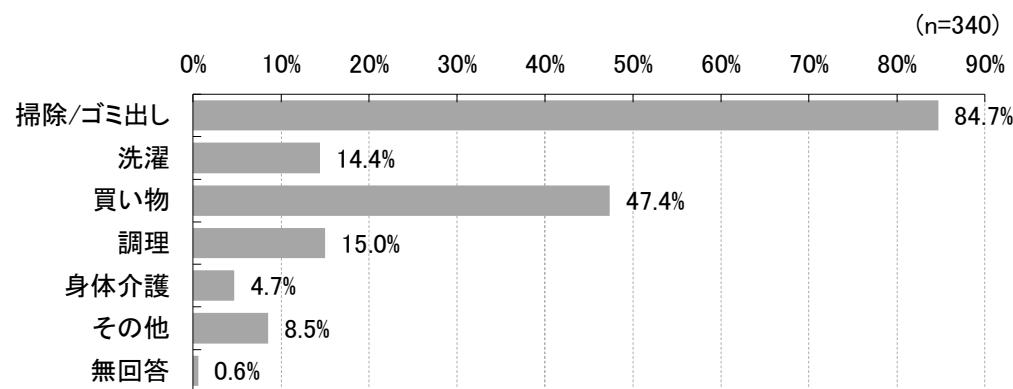
【利用頻度】



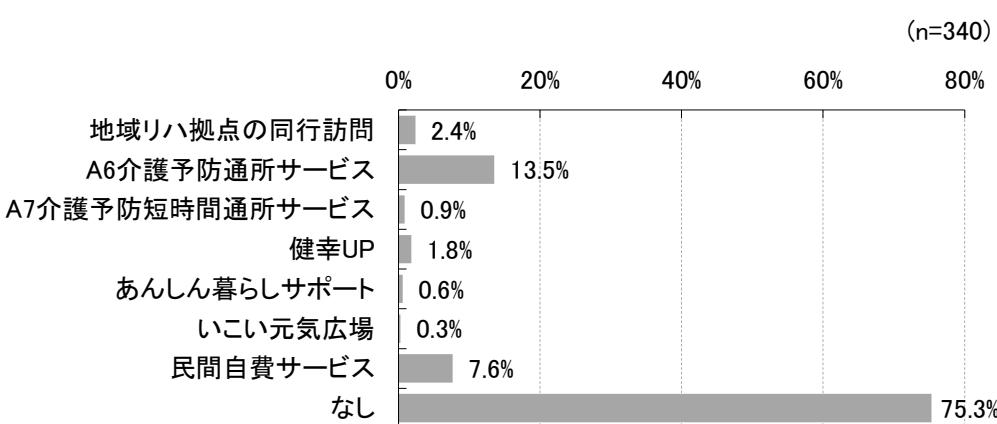
【1回あたりの提供時間(分)】



【サービス提供内容】



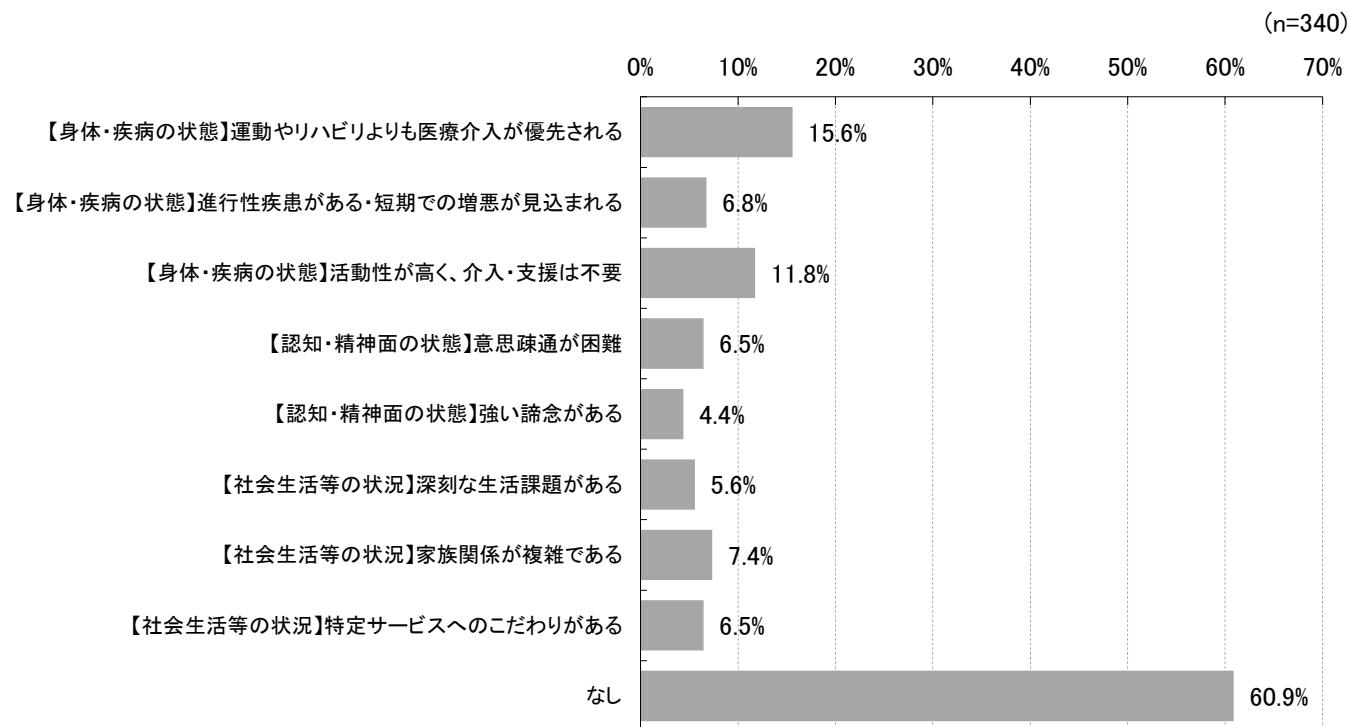
【訪問型サービス以外に利用しているサービス】



利用者的心身状態、社会生活に関する事項への該当状況

- 利用者的心身状態、社会生活に関する事項への該当状況については、「運動やリハビリよりも医療介入が優先される」が15.6%、「活動性が高く、介入・支援は不要」が11.8%、「家族関係が複雑である」が7.4%、「進行性疾患がある・短期での増悪が見込まれる」が6.8%であった。

【利用者的心身状態、社会生活に関する事項への該当状況】



2. 心身状態、社会生活に関する状況別の集計

■ ここでは、アンケート調査項目「心身状態、社会生活に関する事項への該当状況」の回答結果と障害の有無に基づき、対象者を以下の7つの層に分類して集計している。

1_活動性が高く、介入・支援は不要のみ	「活動性が高く、介入・支援は不要」にチェックがあり、その他の項目にチェックがない層
2_該当状況なし(障害なし)	チェックが1つもなく、障害もない層
3_該当状況なし(障害あり)	チェックは1つもなく、障害がある層
4_医療介入・進行性疾患の問題のみ	「①身体・疾病の状態」のみに1つ以上チェックがある層(ただし、「活動性が高く、介入・支援は不要」は除く)
5_認知・精神面の問題のみ	「②認知・精神面の状態」のみに1つ以上チェックがある層
6_社会生活等の問題のみ	「③社会生活等の状況」のみに1つ以上チェックがある層
7_複合的な問題あり	①と②と③に跨ったチェックがある層(ただし、「活動性が高く、介入・支援は不要」は除く)

心身状態、社会生活に関する状況ごとの「訪問型サービス提供の実態」

心身状態、社会生活に関する状況	該当人数	週あたり 提供時間	1人週あたり 提供時間
1 活動性が高く、介入・支援は不要のみ	21人 (6.2%)	16.0時間 (5.3%)	45.7分
2 該当状況なし(障害なし)	186人 (54.7%)	156.2時間 (51.4%)	50.7分
3 該当状況なし(障害あり)	21人 (6.2%)	22.8時間 (7.5%)	65.2分
4 医療介入・進行性疾患の問題のみ	38人 (11.2%)	38.8時間 (12.7%)	61.2分
5 認知・精神面の問題のみ	14人 (4.1%)	13.4時間 (4.4%)	57.3分
6 社会生活等の問題のみ	32人 (9.4%)	31.2.時間 (10.3%)	58.5分
7 複合的な問題あり	28人 (8.2%)	25.8時間 (8.5%)	55.3分

2024年4月～2025年2月に新たに訪問型サービス(A3)を利用したケース

人 数: 340人

提供時間: 304.2時間/週

※「週あたり提供時間」は、「週あたりの利用頻度」に「1回あたりの提供時間(分)」を乗じて算出。「利用頻度」は「週1回未満」を「0.5回」、「週1回程度」と「週2回程度」をそれぞれ「1回」と「2回」、「それ以上」を「3回」として算出

心身状態、社会生活に関する状況ごとの「訪問型サービスの提供内容」

- 「訪問型サービスの提供内容」は、いずれの区も「掃除／ゴミ出し」が最も多かった。
- 「複合的な問題あり」の層では、「洗濯」、「買い物」、「調理」、「その他」の割合が高かった。

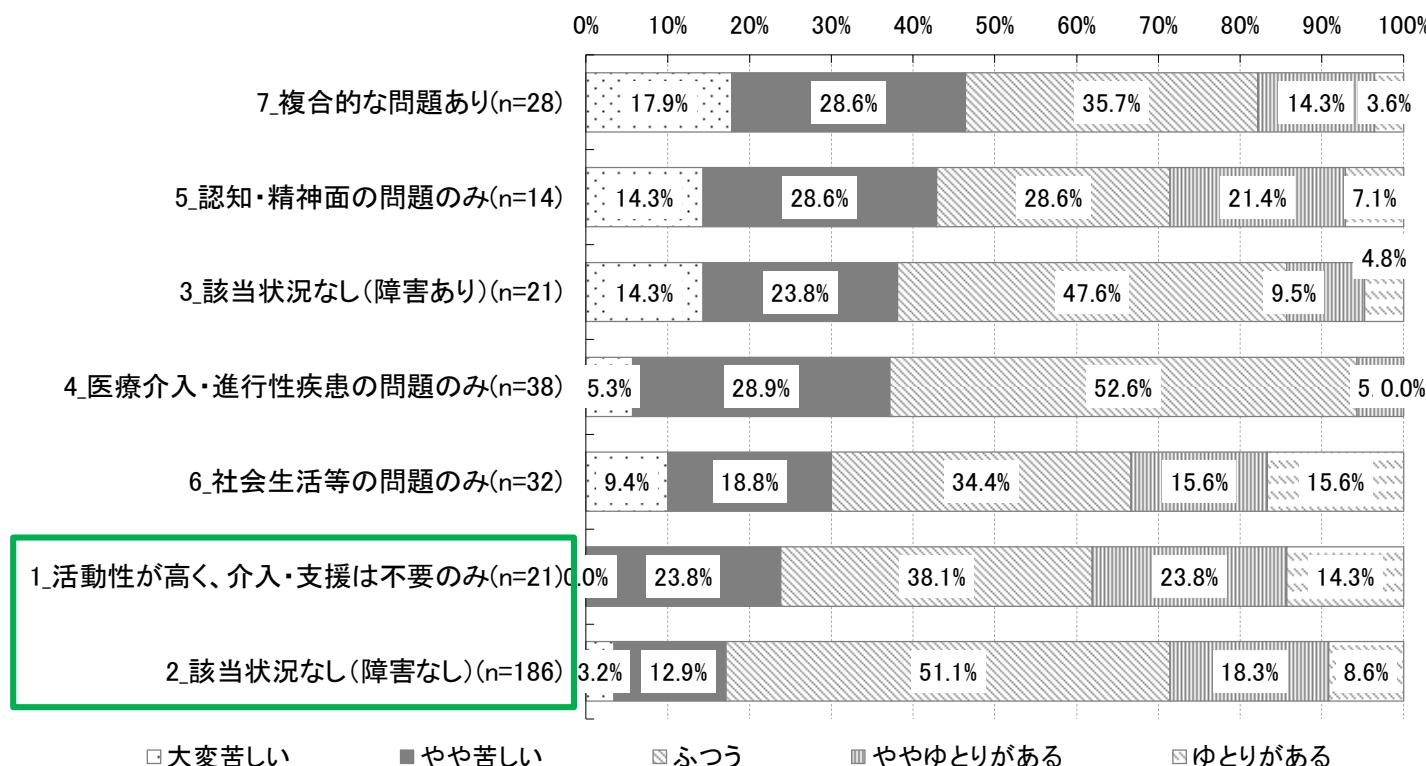
【訪問型サービスの提供内容】

	掃除/ゴミ出し	洗濯	買い物	調理	身体介護	その他
1_活動性が高く、介入・支援は不要のみ(n=21)	95.2%	4.8%	28.6%	4.8%	4.8%	0.0%
2_該当状況なし(障害なし)(n=184)	86.4%	13.0%	45.1%	13.6%	4.3%	4.9%
3_該当状況なし(障害あり)(n=21)	90.5%	4.8%	57.1%	14.3%	0.0%	19.0%
4_医療介入・進行性疾患の問題のみ(n=38)	81.6%	15.8%	47.4%	23.7%	7.9%	18.4%
5_認知・精神面の問題のみ(n=14)	85.7%	21.4%	50.0%	7.1%	7.1%	7.1%
6_社会生活等の問題のみ(n=32)	78.1%	15.6%	50.0%	15.6%	3.1%	3.1%
7_複合的な問題あり(n=28)	78.6%	32.1%	67.9%	25.0%	7.1%	25.0%

心身状態、社会生活に関する状況ごとの「世帯の経済状況」

■「世帯の経済状況」について、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合計した割合は、「複合的な問題あり」の層が最も高く46.4%、次いで「認知・精神面の問題のみ」の層が42.9%であった。また、最も低いのは「該当状況なし(障害なし)」の層の16.1%、次いで「活動性が高く、介入・支援は不要のみ」の層の23.8%であった。

【世帯の経済状況】

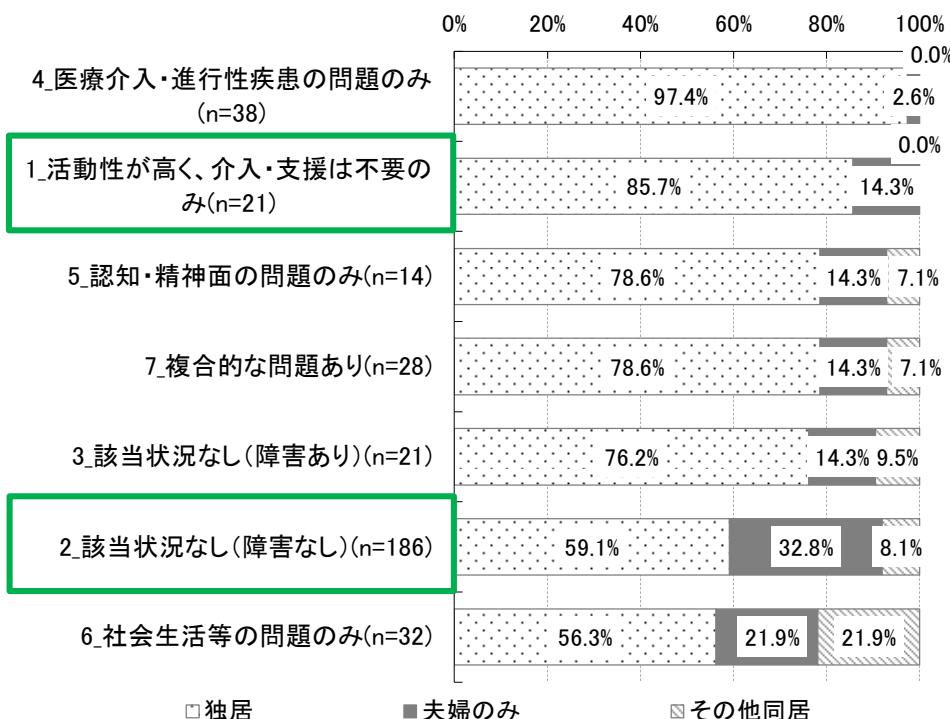


※「大変苦しい」と「やや苦しい」を合計した割合で降順

心身状態、社会生活に関する状況ごとの「世帯類型／要介護度」

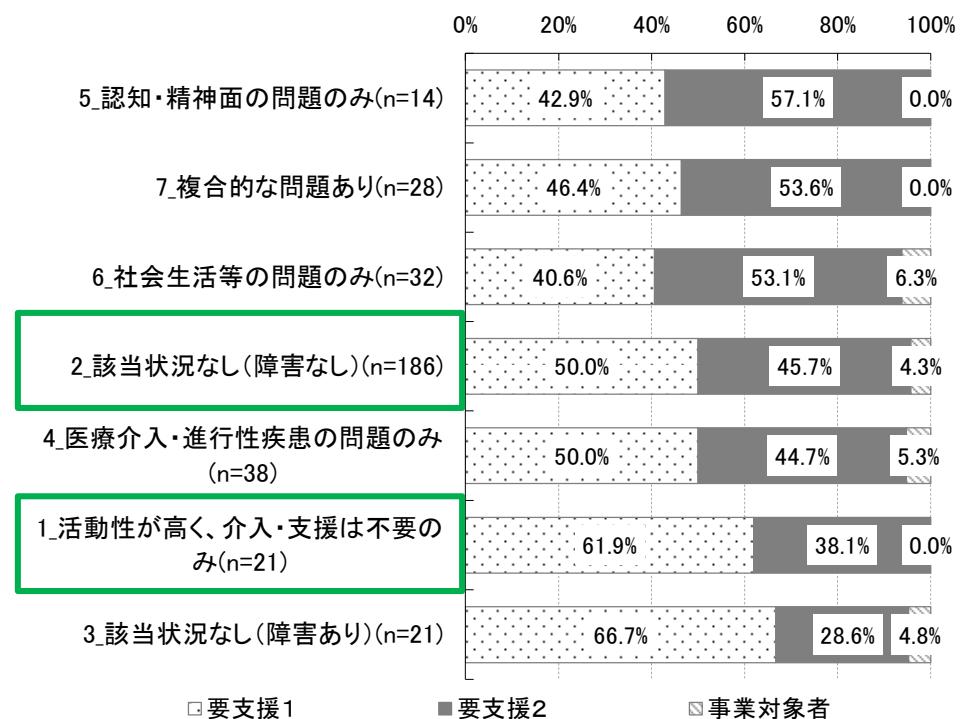
- 世帯類型について、独居の割合が最も高いのは「医療介入・進行性疾患の問題のみ」の層の97.4%、次いで「活動性が高く、介入・支援は不要のみ」の層の85.7%であった。
- 要介護度について、要支援2の割合が最も高いのは「認知・精神面の問題のみ」の層の57.1%、次いで「複合的な問題あり」の層の53.6%であった。

【世帯類型】



※ 独居の割合で降順

【要介護度】

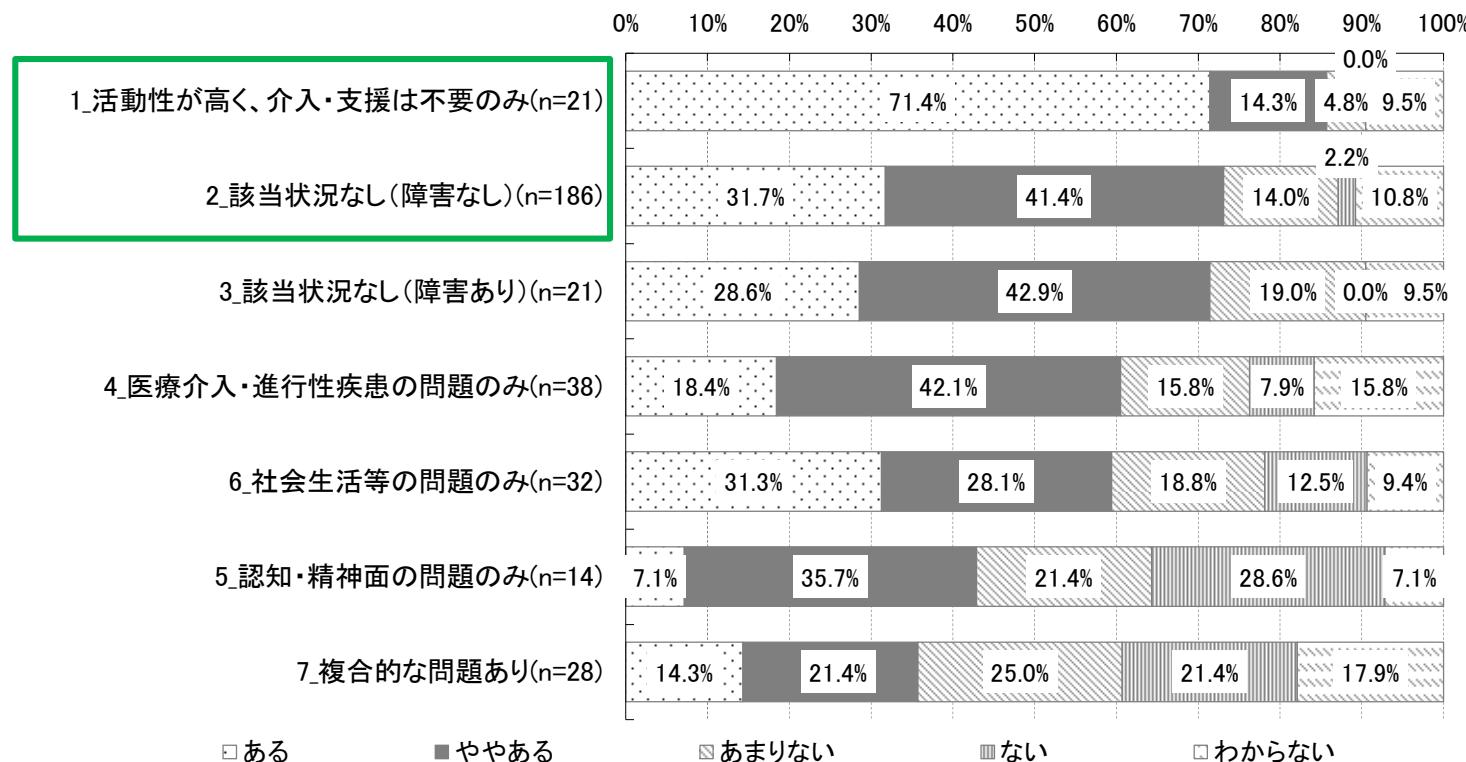


※ 要支援2の割合で降順

心身状態、社会生活に関する状況ごとの「本人の改善意欲」

■「本人の改善意欲」について、「ある」と「ややある」を合計した割合は、「活動性が高く、介入・支援は不要のみ」の層が最も高く85.7%、次いで「該当状況なし(障害なし)」が73.1%であった。また、最も低いのは「複合的な問題あり」の層の35.7%、次いで「認知・精神面の問題のみ」の層の42.9%であった。

【本人の改善意欲】



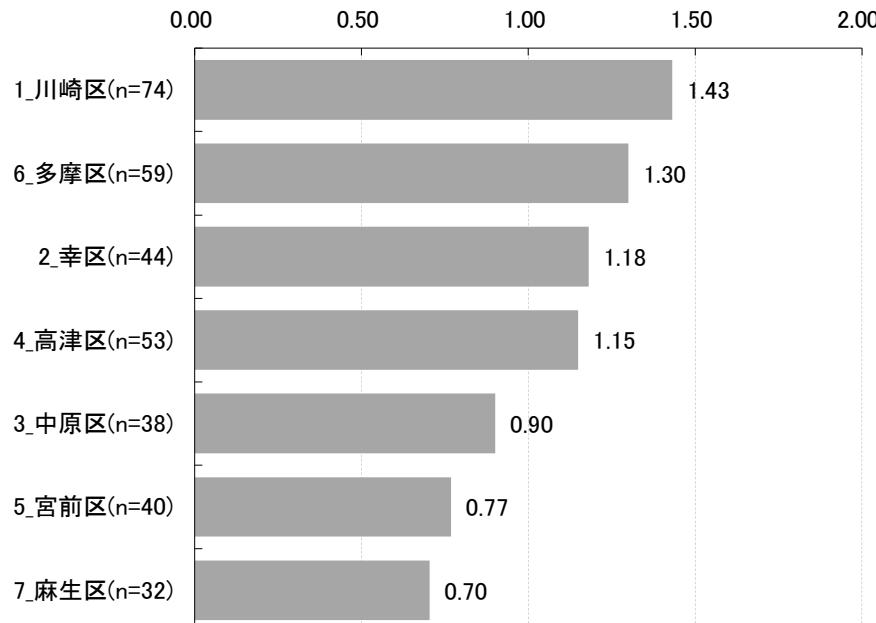
※「ある」と「ややある」を合計した割合で降順

3. 区別集計

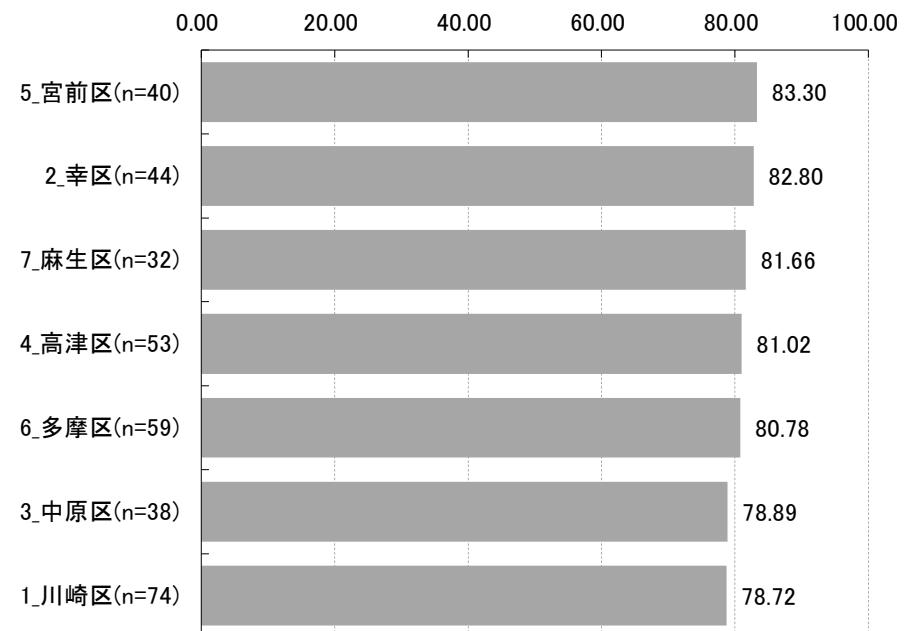
65歳以上人口1,000人当たり新規利用者数／平均年齢

- 「65歳以上人口1,000人当たり新規利用者数」は、「川崎区」が最も多く1.43人、次いで「多摩区」が1.30人であった。また、最も少ないのは「麻生区」の0.70人、次いで「宮前区」が0.77人であった。
- 平均年齢は、「宮前区」が最も高く83.30歳、次いで「幸区」が82.80歳であった。また、最も低いのは「川崎区」の78.72歳、次いで「中原区」の78.89歳であった。

【65歳以上人口1,000人当たり新規利用者数】



【平均年齢】

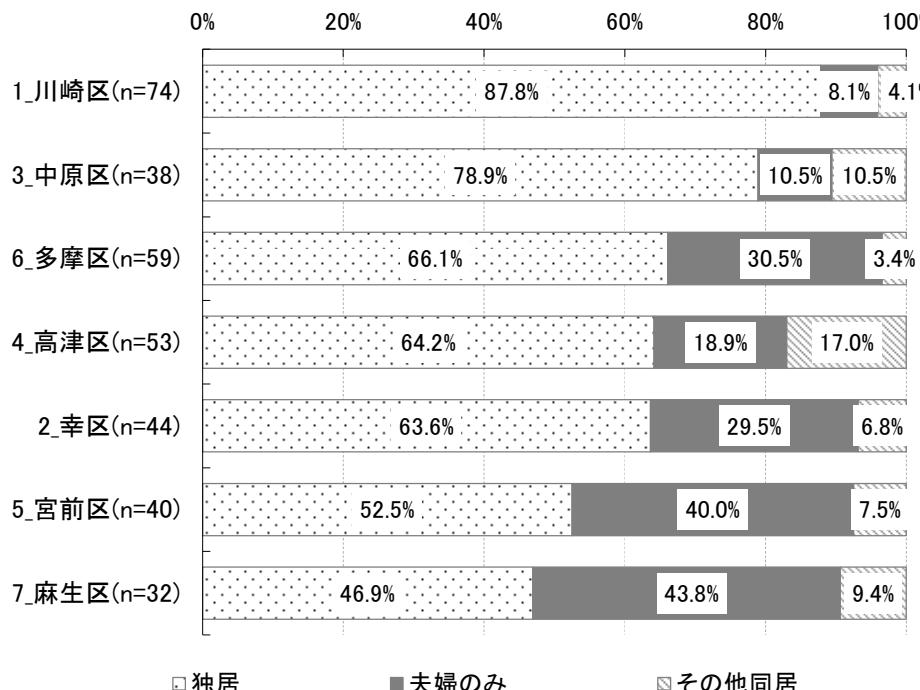


※回答のあった340名を新規利用者として集計

世帯類型／要介護度

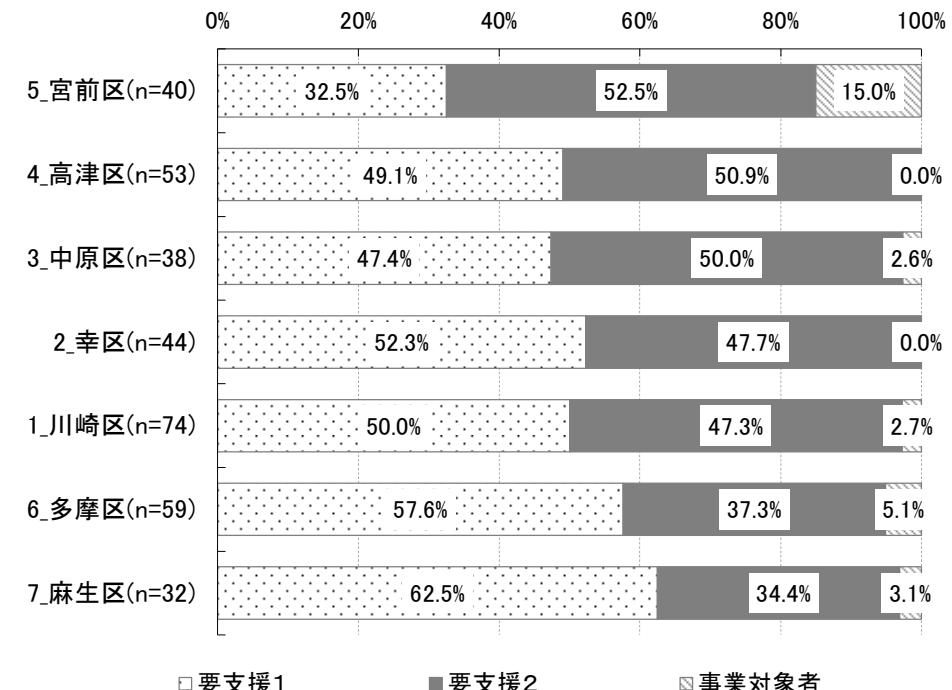
- 世帯類型について、独居の割合が最も高いのは「川崎区」の87.8%、次いで「中原区」の78.9%であった。また、最も低いのは「麻生区」の46.9%、次いで「宮前区」の52.5%であった。
- 要介護度について、要支援2の割合が最も高いのは「宮前区」の52.5%、次いで「高津区」の50.9%であった。また、最も低いのは「麻生区」の34.4%、次いで「多摩区」の37.3%であった。

【世帯類型】



※ 独居の割合で降順

【要介護度】

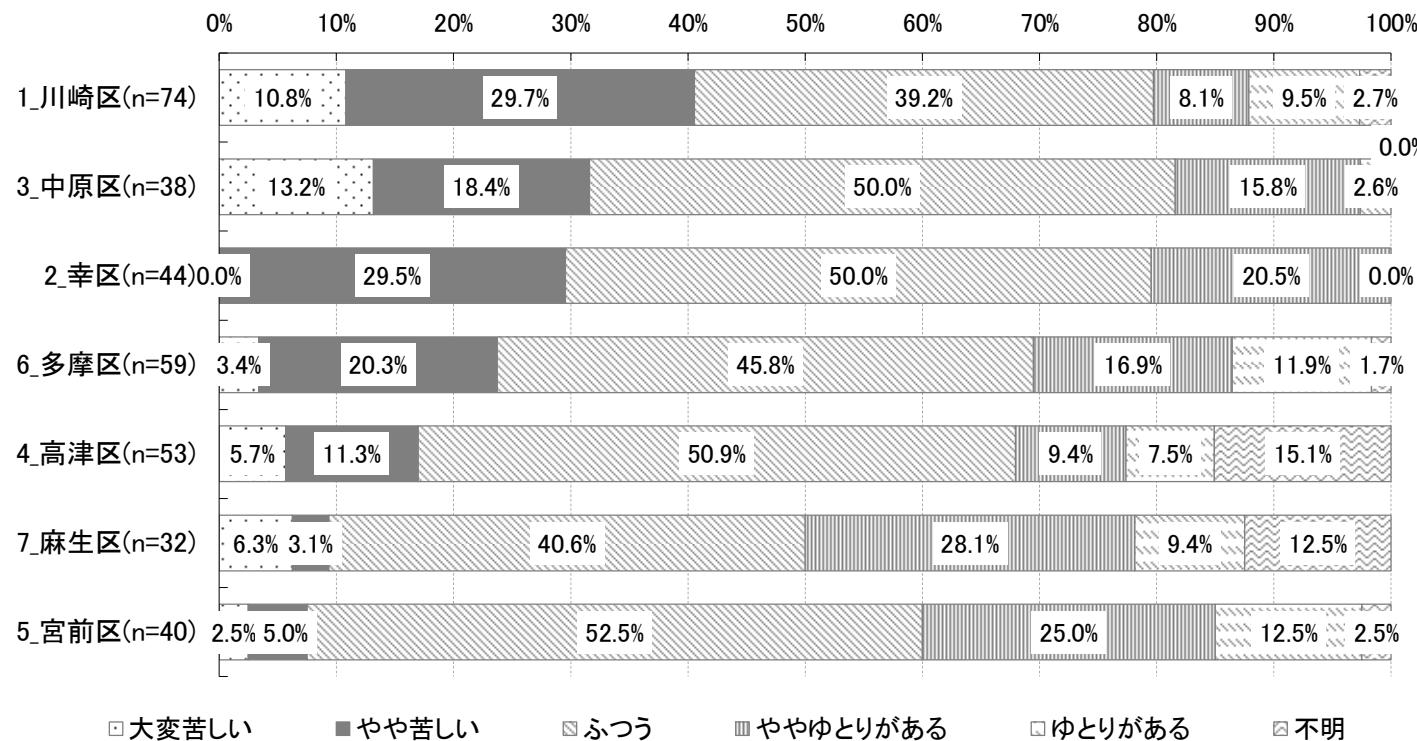


※ 要支援2の割合で降順

世帯の経済状況

■「世帯の経済状況」について、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合計した割合は、「川崎区」が最も高く40.5%、次いで「中原区」が31.6%であった。また、最も低いのは「宮前区」の7.5%、次いで「麻生区」の9.4%であった。

【世帯の経済状況】

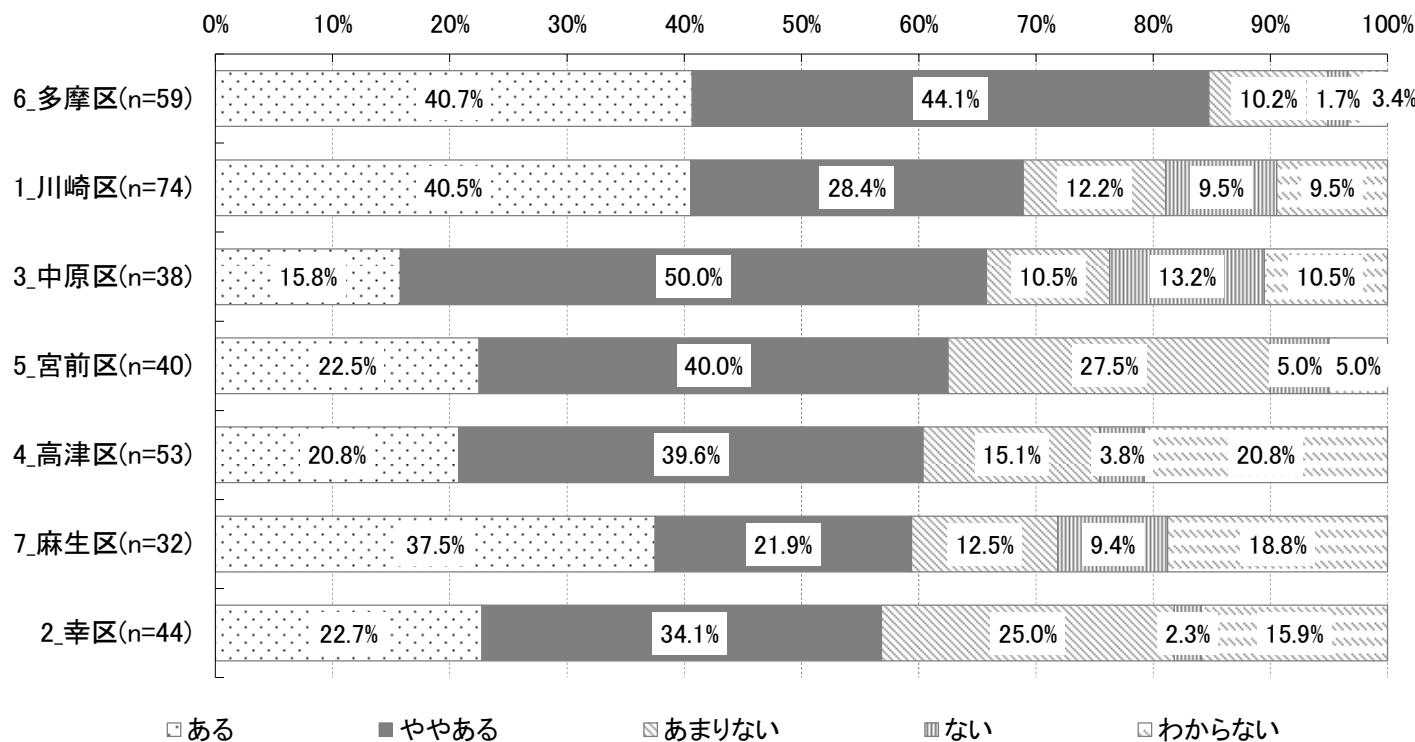


※「大変苦しい」と「やや苦しい」を合計した割合で降順

本人の改善意欲

■「本人の改善意欲」について、「ある」と「ややある」を合計した割合は、「多摩区」が最も高く84.7%、次いで「川崎区」が68.9%であった。また、最も低いのは「幸区」の56.8%、次いで「麻生区」の59.4%であった。

【本人の改善意欲】

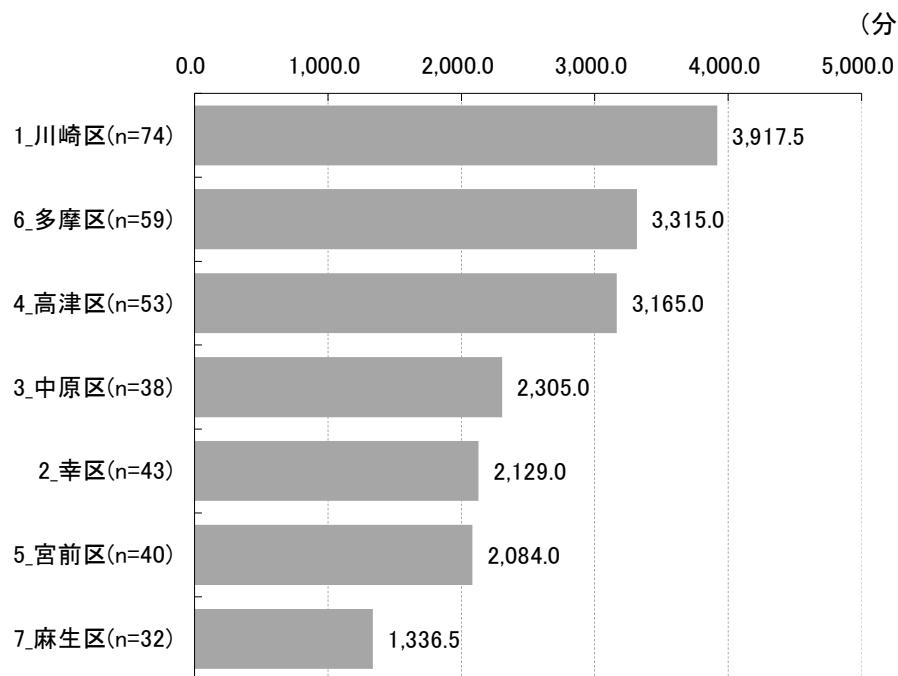


※「ある」と「ややある」を合計した割合で降順

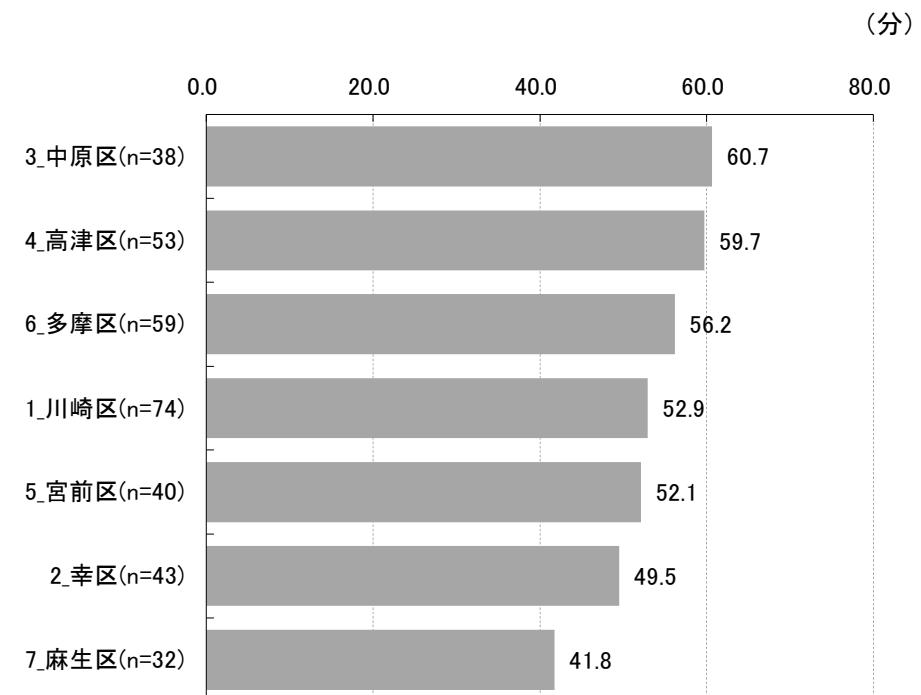
訪問型サービスの提供時間

- 訪問型サービスの提供時間について、週あたり提供時間の合計が最も長いのは「川崎区」の3,917.5分、次いで「多摩区」の3,315.0分であった。また、最も短いのは「麻生区」の1,336.5分、次いで「宮前区」の2,084.0分であった。
- 週あたり提供時間の平均(1人あたり)について、最も長いのは「中原区」の60.7分、次いで「高津区」の59.7分であった。また、最も短いのは「麻生区」の41.8分、次いで「幸区」の49.5分であった。

【週あたり提供時間の合計】



【週あたり提供時間の平均(1人あたり)】



※「週あたりの利用頻度」に「1回あたりの提供時間(分)」を乗じて算出
「利用頻度」は「週1回未満」を「0.5回」、「週1回程度」と「週2回程度」を
それぞれ「1回」と「2回」、「それ以上」を「3回」として算出

訪問型サービスの提供内容

- 「訪問型サービスの提供内容」は、いずれの区も「掃除／ゴミ出し」が最も多かった。
- その他では、「洗濯」は「宮前区」、「買い物」は「高津区」、「調理」は「宮前区」、「身体介護」は「多摩区」が最も多かった。

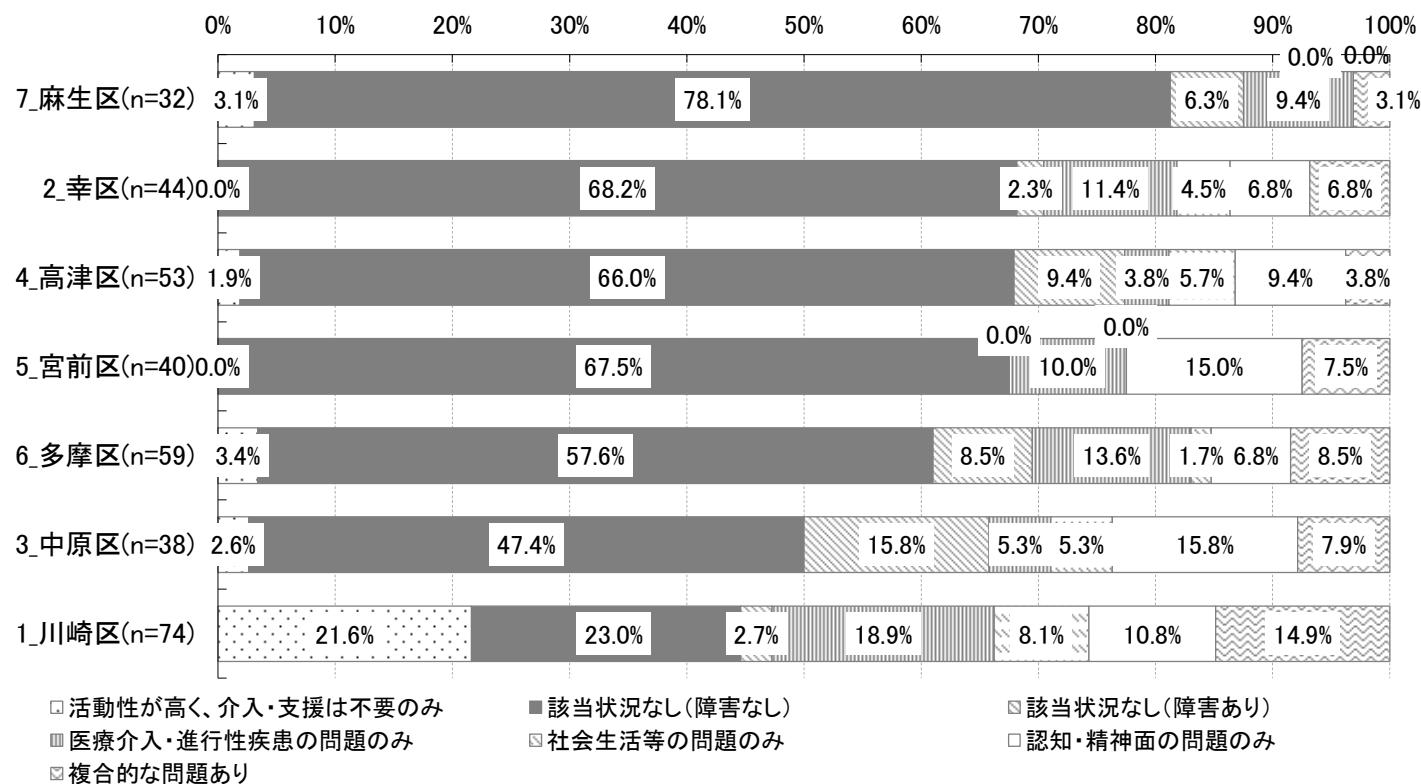
【訪問型サービスの提供内容】

	掃除/ゴミ出し	洗濯	買い物	調理	身体介護	その他
1_川崎区(n=74)	85.1%	8.1%	47.3%	6.8%	2.7%	9.5%
2_幸区(n=43)	83.7%	18.6%	55.8%	14.0%	4.7%	11.6%
3_中原区(n=38)	89.5%	15.8%	52.6%	15.8%	7.9%	2.6%
4_高津区(n=52)	78.8%	13.5%	59.6%	15.4%	3.8%	15.4%
5_宮前区(n=40)	90.0%	25.0%	35.0%	37.5%	2.5%	10.0%
6_多摩区(n=59)	83.1%	15.3%	55.9%	11.9%	8.5%	3.4%
7_麻生区(n=32)	90.6%	9.4%	12.5%	12.5%	3.1%	6.3%

心身状態、社会生活に関する事項への該当状況

■「心身状態、社会生活に関する事項への該当状況」について、「活動性が高く、介入・支援は不要のみ」と「該当状況なし(障害なし)」を合計した割合は、「麻生区」が最も高く81.3%、次いで「幸区」が68.2%であった。また、最も低いのは「川崎区」の44.6%、次いで「中原区」の50.0%であった。

【心身状態、社会生活に関する事項への該当状況】



※「活動性が高く、介入・支援は不要のみ」と「該当状況なし(障害なし)」を合計した割合で降順